

## 「西国街道」(山陽道)



執筆者がバトンタッチしました。前任者ほど多くの号は発行できませんが、今後とも「ぶらり加古川」をよろしく願います。

古くから開けた加古川には、古代以来の事跡が多く存在します。よくご存知のものもあると思いますが、先代の記事も引き合いに出しつつ紹介させていただきます。

西国街道（教科書等では「中国街道」と記される）は、江戸時代において「五街道」（東海道・中山道・甲州道中・奥州道中・日光道中）に次ぐ脇街道の一つで、大坂～赤間関（下関）を結びました。そのルートは、古代律令時代に整備された「山陽道」（第9号「賀古駅家」等参照）と一致します。国道2号線も、ほぼ同じルートを踏襲しています。



江戸時代には「参勤交代」等のために街道が整備され、各藩の領内であっても幕府の道中奉行が支配し、宿場が指定され、諸大名の宿舎としての本陣、（本陣は現在の寺家町商店街にありました。第18号「ぶらり寺家町」等参照）脇本陣、そして武士や一般庶民等の宿舎であった旅籠等が整備されました。加古川にも、現在の本町～寺家町周辺に宿場が置かれ、儒学者頼山陽や、シーボルト・小林一茶も宿泊したそうです。

西国街道は、加古川駅～東加古川駅ではJR線路の南、国道2号線の北にあり、2号線の脇道になっています。沿道には多くの社寺等があり、加古川市観光協会「西国街道浪漫コース」で観光スポットが紹介されています。

もうすぐGWです。徒歩・自転車等でゆっくり巡ってみると、様々な発見があるかも知れませんね。



野口神社前の標柱  
加古川駅南にもあり

ぶらり加古川 第49号  
平成29年4月